



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月14日

上場会社名 株式会社エンバイオ・ホールディングス 上場取引所 東
コード番号 6092 URL <https://enbio-holdings.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 賀一
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 田月 智之 TEL 03 (5297) 7155
四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有（決算説明動画配信予定）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	5,482	△2.7	409	△70.3	548	△64.1	321	△67.0
2023年3月期第2四半期	5,636	31.0	1,378	96.1	1,529	126.9	972	159.0

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 408百万円 (△60.6%) 2023年3月期第2四半期 1,034百万円 (193.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	41.11	-
2023年3月期第2四半期	146.42	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	18,265	8,261	44.7	1,003.11
2023年3月期	17,349	6,857	39.1	1,022.70

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 8,162百万円 2023年3月期 6,788百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	0.00	-	8.00	8.00
2024年3月期	-	0.00	-	-	-
2024年3月期（予想）	-	-	-	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,727	19.8	487	△64.1	339	△74.8	201	△75.2	25.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

詳細は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	8,175,200株	2023年3月期	6,675,200株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	37,844株	2023年3月期	37,844株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	7,817,684株	2023年3月期2Q	6,675,200株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に掲載されている業績予想の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、業績の予想等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法について）

当社は、会場での機関投資家・アナリスト向け四半期決算説明会を開催せず、当社ホームページにてオンデマンド動画配信形式で四半期決算説明動画を配信する予定です。四半期決算補足説明資料については、本四半期決算短信公表時にあわせて当社ホームページに掲載いたします。なお、四半期決算説明動画の配信については、2023年12月上旬を予定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フロー状況の分析	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の緩和により経済活動の再開が進み、ペントアップ需要（繰越需要）、円安によるインバウンド消費の増加、自動車産業の供給制約の緩和などにより、回復基調で推移しました。

一方、海外の経済や物価動向、ウクライナ情勢、中東の地政学リスクが顕在化するなど、世界的なリセッション（景気後退）につながる恐れがあり、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの業績に大きな影響を及ぼす建設業界におきましては、公共投資は底堅さを維持し、民間設備投資が着実に進み、建設需要は増加傾向です。他方、建設資材価格が総じて高い価格水準にあることに加え、慢性的な労働者不足から労務費も上昇の傾向がみられ、引き続き経営環境への影響を注視する状況が続いております。また、不動産業界におきましては、住宅需要は堅調に推移しているものの、建築資材価格の高騰により販売価格相場の上昇傾向がみられ、物件の割高感が増しており、住宅需要はその影響を受け始めております。住宅ローン金利は低水準を維持しているものの、事業環境の変化の兆しを注視する必要があります。

このような背景のもと、当社グループは、ESG経営に積極的に取り組むとともに、土壌汚染対策事業におきましては、リスク管理型手法や責任施工保証の提案、工物品質管理、工事原価管理の徹底、DXの推進による業務効率化などの施策を推進しております。ブラウンフィールド活用事業におきましては、土壌汚染問題に直面する事業用地等を積極的に取得し、市場のニーズに合わせ、企画開発力を生かして付加価値を高めた形で、お客様に対し再販することに努めております。また、自然エネルギー事業におきましては、FITに頼らないビジネスモデルとして、工場、物流倉庫、ホームセンター等へのPPAモデルの提案を積極的に展開しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,482,836千円（前年同四半期比2.7%減）となりました。経常利益は548,945千円（同64.1%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は321,387千円（同67.0%減）となりました。

以下に各セグメントの状況を報告いたします。

①土壌汚染対策事業

当第2四半期連結累計期間の売上高は2,149,970千円（同17.5%減）となり、セグメント利益は31,271千円（同91.0%減）となりました。

国内では土壌汚染対策工事の引き合いは、引き続き堅調さを維持しておりますが、完全浄化以外の選択肢を求める顧客が増えており、土壌汚染の管理を目的とする経済的な対策（リスク管理型手法）や土壌調査と対策工事をセットにし対策費用の総額を保証して実施する責任施工など差別化された提案に注力しております。稼働中の工場の長期化する地下水汚染に対するリスク管理型手法の有力工法として米社から新たに導入した原位置透過壁工法（ブルームストップ工法）については、第一号案件を実施中です。株式会社エンバイオ・エンジニアリングが保有する原位置化学酸化技術とブルームストップ工法を組み合わせたハイブリッド工法は、東京都の「地下水汚染拡大防止技術支援」で推奨する技術メニューに認定されました。受注に関してはほぼ計画どおりに進捗しておりますが、大型案件で顧客都合による着工遅延が発生したことに加えて、前年と比べて高利益率の案件が少ないことから、前年同四半期比で減収減益となりました。

中国では日系企業の工場移転や事業撤退に伴う土壌汚染対策に注力しております。引き合い件数は増えてきたものの、日系企業の工場売却先の中国資本が主導権を持つケースが散見され、予断を許さない受注環境になってきました。

②ブラウンフィールド活用事業

当第2四半期連結累計期間の売上高は2,423,177千円（同10.4%増）となり、セグメント利益は250,734千円（同67.9%減）となりました。

株式会社エンバイオ・リアルエステートでは引き続き仕入れ競争が激化している中、大手や中小の仲介業者に相対で進められる案件の情報収集を積極的に行い、目黒区内のメッキ工場跡地を含む12物件を仕入れました。また、販売においては6物件の販売を行いました。なお、関西エリア（京都）で初の土壌汚染地を購入し、今後は関西エリアの情報収集も行っていく予定です。

大規模な土壌汚染地を扱う株式会社土地再生投資では、仕入れはありませんでしたが、1件のコンサル受注および3件の受注斡旋を行いました。大規模な厚木市内案件の売却があったため増収となりましたが、前期のような高利益率案件の販売がなかったため減益となりました。

③自然エネルギー事業

当第2四半期連結累計期間の売上高は909,689千円(同8.8%増)となり、セグメント利益は244,630千円(同19.5%減)となりました。

当第2四半期連結会計期間末日における国内外の再生可能エネルギー発電所は開発中含め48か所、総発電量48MWとなっております。九州電力管内、中国電力管内、東北電力管内において出力制御の影響を受け、売電収入が計画を下回ったものの、新たに開始した再エネ電力を供給するサービスの営業が好調に推移したため増収となりました。また、宮城県に設置している太陽光発電所(リース物件)1箇所にて設備の故障が発生し、利益を圧迫したため減益となりました。なお、当該故障による逸失利益は第3四半期連結会計期間以降に保険金収入で補填される見込みであります。

クリーンエネルギーの需要は依然として高く、海外を含む新規案件の情報収集、セカンダリー発電所やコーポレートPPA案件、再生可能エネルギーを用いた新たなビジネススキームの検討に注力しております。その一環として、Alamport Renewables Pte. Ltd. との資本業務提携によりインドネシアでの再生可能エネルギー事業の検討を開始しております。

[国内]

株式会社シーアールイーが開発する物流施設「LogiSquare(ロジスクエア)」の屋根を活用した太陽光発電所(ロジスクエア白井、ロジスクエア枚方)の商業運転を2023年11月に予定しております。

脱炭素社会の実現に向け、CO2削減に取り組む企業向けに、非化石証書の販売や再エネ電力を供給するサービスを開始しました。

[海外]

ヨルダンにおいて、引き続き水資源開発の可能性を調査しております。またトルコにて開始しているバイオマス発電事業のフル稼働の早期実現に向け注力しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における資産につきましては、総資産は18,265,083千円となり、前連結会計年度末に比べ915,127千円増加いたしました。これは主に有形固定資産が942,555千円、受取手形、売掛金及び契約資産が615,049千円及び現金及び預金が522,394千円増加したものの、棚卸資産が893,214千円及び投資その他の資産が167,487千円減少したことによるものであります。

負債につきましては、10,003,996千円と前連結会計年度末に比べ488,718千円減少いたしました。これは主に短期借入金481,583千円、長期借入金361,621千円及び買掛金が238,456千円増加したものの、1年内返済予定の長期借入金が1,477,969千円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、8,261,086千円と前連結会計年度末に比べ1,403,845千円増加いたしました。これは主に資本金528,000千円、資本剰余金528,663千円及び利益剰余金が262,699千円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フロー状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の期末残高は、前連結会計年度末に比べ522,393千円増加し、3,321,029千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果、獲得した資金は1,022,064千円(前年同四半期比52.0%減)となりました。これは主に、棚卸資産の減少額883,032千円、税金等調整前四半期純利益547,533千円及び売上債権の増加額613,037千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果、使用した資金は789,128千円(前年同四半期比0.2%増)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出679,755千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果、獲得した資金は337,487千円(前年同四半期は224,788千円の使用)となりました。これは主に、株式の発行による収入1,056,000千円、長期借入による収入921,985千円、短期借入金の純増加額481,583千円及び長期借入金の返済による支出2,038,332千円によるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想につきましては、2023年5月15日の「2023年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想の「売上高」「営業利益」「経常利益」「親会社株主に帰属する当期純利益」に変更はありませんが、「1株当たり当期純利益」は2023年5月10日付の第三者割当増資による新株発行を考慮した金額を記載しております。

なお、連結業績予想は、同資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,828,655	3,351,049
受取手形、売掛金及び契約資産	806,430	1,421,480
棚卸資産	3,373,229	2,480,015
その他	324,758	237,287
貸倒引当金	△14,911	△14,691
流動資産合計	7,318,162	7,475,141
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	568,322	573,522
機械装置及び運搬具（純額）	4,356,267	4,769,845
土地	1,882,939	2,206,399
建設仮勘定	194,233	394,168
その他（純額）	14,846	15,230
有形固定資産合計	7,016,610	7,959,166
無形固定資産		
のれん	110,082	106,077
その他	399,467	386,552
無形固定資産合計	509,549	492,630
投資その他の資産	2,505,632	2,338,145
固定資産合計	10,031,793	10,789,941
資産合計	17,349,955	18,265,083
負債の部		
流動負債		
買掛金	400,577	639,034
未払金及び未払費用	85,125	108,328
短期借入金	854,416	1,336,000
1年内返済予定の長期借入金	2,293,250	815,281
未払法人税等	316,025	92,731
契約負債	405,475	321,587
賞与引当金	31,582	30,741
その他	84,988	254,271
流動負債合計	4,471,441	3,597,976
固定負債		
長期借入金	5,749,288	6,110,909
資産除去債務	128,911	140,368
デリバティブ債務	60,144	25,457
その他	82,929	129,284
固定負債合計	6,021,273	6,406,020
負債合計	10,492,714	10,003,996

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,797,334	2,325,334
資本剰余金	1,876,574	2,405,238
利益剰余金	3,111,508	3,374,208
自己株式	△15,421	△15,421
株主資本合計	6,769,995	8,089,359
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△18,193	7,914
繰延ヘッジ損益	△45,961	△18,690
為替換算調整勘定	82,166	84,045
その他の包括利益累計額合計	18,011	73,268
非支配株主持分	69,234	98,459
純資産合計	6,857,241	8,261,086
負債純資産合計	17,349,955	18,265,083

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	5,636,865	5,482,836
売上原価	3,555,254	4,244,419
売上総利益	2,081,610	1,238,416
販売費及び一般管理費	703,298	829,044
営業利益	1,378,311	409,372
営業外収益		
受取利息及び配当金	19,953	23,016
為替差益	173,259	163,055
受取家賃	2,445	2,865
受取保険金	1,139	14,788
貸倒引当金戻入額	7,107	220
その他	12,690	5,424
営業外収益合計	216,596	209,369
営業外費用		
支払利息	62,089	56,449
支払手数料	2,514	6,991
その他	1,192	6,355
営業外費用合計	65,795	69,796
経常利益	1,529,111	548,945
特別損失		
減損損失	78,111	-
固定資産除却損	-	1,412
特別損失合計	78,111	1,412
税金等調整前四半期純利益	1,451,000	547,533
法人税、住民税及び事業税	485,253	146,646
法人税等調整額	△4,813	48,021
法人税等合計	480,439	194,667
四半期純利益	970,560	352,865
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,163	31,477
親会社株主に帰属する四半期純利益	972,724	321,387

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	970,560	352,865
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△20,087	26,107
繰延ヘッジ損益	37,142	27,738
為替換算調整勘定	46,937	1,317
その他の包括利益合計	63,992	55,163
四半期包括利益	1,034,553	408,029
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,036,447	376,644
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,893	31,384

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,451,000	547,533
減価償却費	190,467	206,536
減損損失	78,111	-
のれん償却額	4,004	4,004
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△7,107	△220
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	517	-
受取利息及び受取配当金	△19,953	△23,016
支払利息	62,089	56,449
為替差損益 (△は益)	△173,891	△164,004
固定資産除却損	-	1,412
売上債権の増減額 (△は増加)	212,316	△613,037
棚卸資産の増減額 (△は増加)	723,193	883,032
仕入債務の増減額 (△は減少)	△66,094	235,289
契約負債の増減額 (△は減少)	645	△83,887
その他	82,668	320,059
小計	2,537,967	1,370,149
利息及び配当金の受取額	5,989	17,490
利息の支払額	△62,898	△57,094
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△352,670	△308,481
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,128,386	1,022,064
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△0
有形固定資産の取得による支出	△725,594	△679,755
無形固定資産の取得による支出	△1,530	-
投資有価証券の取得による支出	△6,084	△935
長期前払費用の取得による支出	△19,750	△5,966
貸付けによる支出	△23,841	△73,585
その他	△11,649	△28,884
投資活動によるキャッシュ・フロー	△788,451	△789,128
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	68,000	481,583
長期借入れによる収入	628,675	921,985
長期借入金の返済による支出	△848,716	△2,038,332
社債の償還による支出	△17,500	△18,500
支払手数料の支払額	△2,514	△10,834
株式の発行による収入	-	1,056,000
配当金の支払額	△52,733	△52,914
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	△1,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	△224,788	337,487
現金及び現金同等物に係る換算差額	△76,521	△96,979
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,038,625	473,443
現金及び現金同等物の期首残高	2,341,616	2,798,635
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	48,950
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,380,241	3,321,029

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年4月21日開催の取締役会において、株式会社シーアールイーを割当先とする第三者割当による新株式の発行を行うことを決議し2023年5月10日に払込が完了いたしました。その結果、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ528,000千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,325,334千円、資本準備金が2,235,334千円となっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(有形固定資産から販売用不動産への振替)

当第2四半期連結累計期間において、販売用不動産のうち、53,981千円を所有目的変更により有形固定資産に振替えております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	土壌汚染 対策事業	ブラウン フィールド 活用事業	自然 エネルギー 事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,605,535	2,195,551	835,779	5,636,865	-	5,636,865
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,200	7,700	-	10,900	△10,900	-
計	2,608,735	2,203,251	835,779	5,647,765	△10,900	5,636,865
セグメント利益	346,474	780,154	304,067	1,430,696	98,415	1,529,111

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去△230,447千円及び報告セグメントに帰属しない親会社に係る損益328,863千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ブラウンフィールド活用事業」セグメントにおいて、78,111千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	土壌汚染 対策事業	ブラウン フィールド 活用事業	自然 エネルギー 事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,149,970	2,423,177	909,689	5,482,836	-	5,482,836
セグメント間の内部売上高 又は振替高	352,529	21,102	-	373,632	△373,632	-
計	2,502,499	2,444,279	909,689	5,856,468	△373,632	5,482,836
セグメント利益	31,271	250,734	244,630	526,635	22,310	548,945

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去△373,456千円及び報告セグメントに帰属しない親会社に係る損益395,766千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。